

令和4年度（2022年度）第3回東海市地域公共交通会議会議録

○会議の名称 令和4年度（2022年度）第3回東海市地域公共交通会議

○開催日時 令和4年（2022年）12月22日（木）

午後1時30分から午後2時50分まで

○開催場所 東海市役所302会議室（3階）

○出席委員 星川功（会長）、齋藤誠（副会長）、嶋田喜昭（議長）、
金森隆浩、川本晃平、小林裕之、佐野達郎、日浦佳宏、
湯浅一成、片桐真砂子、平松久知、大里美栄子、大瀧諒、
秋山和子、大村茂樹、田内重光、山内三奈、桑山忍、
久保田英男、大林益英、大西彰

○欠席委員 天野朝之、村瀬謙治、三浦礼一、横山和彦

○事務局 総務部長、総務部次長、交通防犯課長、同主任2人

○オブザーバー 委託事業者1人

○傍聴者の数 2人

○議題及び審議の概要

1. 開会のことば

2. 会長あいさつ

（会長）今年の漢字は「戦」。ロシアによるウクライナ侵攻による「戦」争の恐ろしさを目の当たりにした一年であったが、野球やサッカーを始めとしたスポーツでの熱「戦」も多く見られた年であった。本日は、アンケート調査結果について、事務局より報告させていただく。今後はクロス集計等、様々な角度からの分析を進めていき、次回の会議では、地域公共交通計画の骨子案を提示させていただく予定である。委員の皆様にはそれぞれの立場から、忌憚ないご意見をお願いしたい。

3. 報告事項

(1) 前回の会議録の確認について

事務局による資料1の説明

(2) 循環バスの利用状況等について

事務局による資料2の説明

(委員) 循環バスの利用者数が回復傾向にあるが、回復してきている利用者層は把握しているのか。

(事務局) 毎月、平・休日1日ずつ乗降調査を実施しているが、年齢層までは把握していない。

(3) 東海市地域公共交通網形成計画の推進について

事務局による資料3の説明

(議長) 参加者が少ないように感じるが、スマートフォンの活用についてあまり関心がないのか。

(事務局) 今回の講習会は1回当たりの募集人数を6名としており、小規模での開催であったため参加者が少なめとなっている。また、基礎編と応用編に分かれており、今回の対象者は応用編に参加された方のみである。

(議長) 稲沢市でアプリの講座を利用したいかどうかアンケート調査した際は、利用したいと回答した人は1割程度しかいなかった。参加してくれた人が活用できるようになって、利用促進に繋がってくるとよい。

(委員) 保育園児の絵を車両に掲示する事業はとても良いと思う。他の系統の車両でも実施してはどうか。

(事務局) 北ルート、南ルートは小型バスを使用しているため掲示スペースは少ないが、実施する方向で検討する。

(委員) 知多乗合株式会社では、高齢者を対象とした乗り方教室を実施している。来年度から循環バスにおいてもICカード決済を導入することもあり、機会があればぜひ協力させていただきたい。

(事務局) ぜひお願いしたい。

(4) 令和4年度補助系統別事業評価票について

事務局による資料4、資料5の説明

(委員) 県下の幹線系統の中でも、利用者層によって利用者数の回復速度が異なると認識している。横須賀A線はどのような利用者層が多いのか。

(事務局) 通勤・通学者の多い路線である。

(議長) 目標値は少なめに設定しているのか。

(事務局) コロナ禍に入ってから見直されたと聞いている。

(議長) 利用者は減少しているので、A評価だから良いというものではないた

め、今後の対応策が大切である。

(5) 東海市地域公共交通計画策定支援業務委託の進捗状況について

事務局による資料6の説明

資料の修正あり

2ページ下段のグラフ中：通勤・通学（N=74）、通院・お見舞い（N=306）、
買い物（N=192）

（議長）市民アンケートについては50%を超える回収率となっており、興味
関心の高さが伺える。

（会長）回答者の多くが高齢者であり、現状のルートのままがよいという回答
が4割である一方、バスに対する苦情が多いのも事実。高齢者は変化
に対する苦手意識が強い傾向があるのかもしれないが、事務局として
どのように考えているのか。

（事務局）今回のアンケート結果では、現状維持を支持する回答が多くなって
いるが、運行本数を増やして欲しいという意見も大変多く見られたため、
単純な結果のみでルートを決めることはできないと考えている。地区
ごとの分析も含めて、柔軟な思考でルート編成を検討していく。

4. 協議事項

(1) 地域公共確保維持改善事業に係る事業評価について

事務局による資料7の説明

（委員）中部様式7ページの市内路線バス、循環バスの利用者数の1の位の0
が消えている。

（事務局）修正させていただく。

（委員）路線バスや循環バスの目標値が高すぎるのではないか。目標値の変更
はしないのか。

（事務局）路線バスの場合は、減便していることも利用者数減少の理由の1つと
なっている。

（委員）運行本数自体が減ったことで目標値が達成されていない旨も記載する
とよい。次期計画策定の際には、現状を踏まえた目標値設定をすると
よい。

（事務局）そのようにさせていただく。

(委員) 市内路線バスの利用者数の目標値はどのように設定されたのか。

(事務局) 東海市地域公共交通網形成計画策定時の利用者数を維持していくという目標を設定している。

<議長による承認採決>

(一同) 承認

(2) 地域公共交通計画の事業評価について

事務局による資料8の説明

(議長) 地域公共交通計画は法制度の改正により計画の名称が変更になったものである。来年度は、この計画策定に向けて協議を重ねていく。

<議長による承認採決>

(一同) 承認

5. 閉会のことば